毎年約1億円ずつ売上が増える
新富町（宮崎県）農協の野菜栽培

河　見　泰　成

いわゆる“西南暖地”の地の利と気象条件を生かした宮崎県の野菜作りは，早くから知られているが，この頃のように交通機関が発達し，情報網が整備されてくると，遠隔な大消費地との距離感が一挙に縮小され，宮崎県産の野菜は，本当にわれわれにとって身近かなものとなった。川崎―宮崎間に，フェリーによる定期航路が開かれてからは，一層この感が深い。

しかし宮崎県は，面積 7,744.04km^2 もあり，日向市から耳川を遡上（さくじょう）した西郷町の更に奥にある“椎葉村”は，1,862.34km^2 の香川県をすっぽり呑み込んでしまうというほど，大きい方では代表的な県であるが，熊本との県境をなす西方一帯は九州山地に阻（はば）まれていて，延岡，日向，宮崎，日南など太平洋岸の都市と，遠く南の都井岬を結ぶように耕地が細い帯状に展開するという，農業としては，甚だ地勢的に恵まれない環境にある訳だ。

にも拘らず，今日の近代化された宮崎の農業を築き上げたものは，これらの不利にもめげず，生産と技術指導に打ち込んできた，各生産農家と関係指導者各位の努力の賜と云うべきであろう。

と云う訳で，宮崎県の農業とくに野菜生産団地は，いずれも活発な動きを示しているが，この中にあって，先進地域に伍して譲らず，着々と地域内体制を充実しつつある広域生産団地がある。

県都宮崎市の北東12～13km，“佐土原町”の標識が見えると間もなく，児湯郡新富町に入る。この新富町が，野菜，それも特に施設野菜栽培で最近活発な動きを見せている生産団地で，筆者は去る11月15日，現地を訪れる機会を得た。

前日の予報通り，明け方は雨が降っていたが，宮崎駅に近づくにつれて，天気はすっかり快復して，初冬の日向路の空はみずみずしい明るさであった。

宮崎訪問は今度で2度目，と云っても20年振りと云ったら笑われるかも知れないが，戦争直後の昭和23年頃の筆者は，緑肥種子関係の機関に籍を置いていて，たまたまその年の2月下旬から40数日間，本拠を別府において大分，宮崎，熊本，鹿児島などを往ったり来たりしていたから，今度の訪問は文字通りの20年振りである。

駅前も見事に整備されていた。馬鹿でかい建物が見当らないだけ，かえって落着きがあり，緑の中に街があるという実感は，この頃の東京ではとても味えないものであった。この感じは，同行のチッソ旭肥料㈱延岡駐在の染矢さんの案内で，巨大な平和記念塔下から眼下に展開する宮崎全市を俯瞰（ふかん）したとき特に強く感じた。

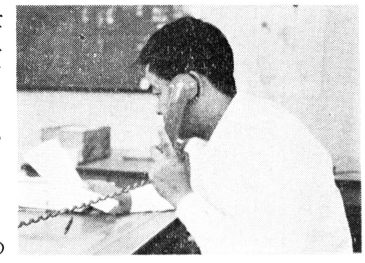
総員27名で固める
新富町農協の営農指導課

約束の時間は1時だとあって，途中食事のため一服したわれわれは宮崎市を後に北上する。

明るい新富町農協の内部

佐土原町を過ぎて間もなく，前方左側に鉄筋の建造物が2，3目に入る。前方2階建のがっしりした建物が新富町農業協同組合で，その後方にあるのが，46年度の広域営農団地整備事業として着工，本年2月29日に完成した児湯野菜集送センターで，地域農業経済の内容の充実振りを物語るかのような偉容は，さすがだと思う。

園芸主任の長友さん



“どうぞこちらへ…。”と，今日の空のように明るい農協の

一番奥のテーブルに案内され，そこで営農指導課の園芸係長の長友金一さんと，担当技師の梶原勇さんにお目にかかり，いろいろ管内の農業事情などについて話を伺った。

担当技師の梶原さん

因みに広域農協としての在り方を示すように，営農指導課と云っても，わが新富町農協営農指導課は，勤続22年のヴェテラン伊藤安夫課長をトップに総員27名で構成されている，大世帯である。

"当新富町農協管内の作付面積は水田1,200ha，畑1,200 ha，ハウス80 ha，みかん130 ha，茶園45 haが主なもので，ハウス経営農家は約300戸で，1,200haの畑では飼料作物などを作っております。みかんも最近は大変良いものが出来るようになりました。え？茶は宮崎茶として販売しておりますが，なかなか評判はええようです。"とのことだ。

さて，ここで新富町農協管内の農業の在り姿を示す興味ある指標があるのでお目にかけよう。

つまり農家1戸当り生産農業所得で新富町は西の関脇に，農地10 a当り生産農業所得にこそ頭を出してはいないが農業専従者1人当り生産農業所得では東方の大関の位置にある。

農業所得水準と農業生産性（10傑）

西方		東方	
農家一戸当り生産農業所得（千円）		農家一戸当り生産農業所得（千円）	
大関	七一四清武	前頭	五〇二高鍋
関脇	六一八新富	小結	五一二北郷
小結	五六四宮崎	関脇	五九六南郷
前頭	五〇四佐土原	横綱	六六四都農
〃	三九五県平均	〃	八〇七川南
農地一〇アール当り生産農業所得		農地一〇アール当り生産農業所得	
大関	五八清武	前頭	四八高岡
小結	五三綾	小結	五一都農
関脇	五〇川南	関脇	五四日南
大関	四〇県平均	大関	五七日向
横綱		横綱	六〇日向
〃		〃	
農業専従者一人当り生産農業所得		農業専従者一人当り生産農業所得	
大関	三五八宮崎	前頭	三一八高鍋
関脇	三三八南郷	小結	三三二日向
小結	三二五国富	関脇	三三六清武
前頭	二五五県平均	大関	三四九新富
横綱		横綱	四〇三川南
張大関		張関脇	
張関脇		張関脇	
三三都農		三三都農	

次に新富町農協の収入源である販売事業関係の内訳はどうなっているか，煩をいとわず作目別に列記してみよう。

"特に野菜について申上げると"46年実績ではハウスが41,820万円，露地物が11,529.3万円計53,349.3万円，ことしは計画ではハウスが51,219万円，露地物9,725万円計60,944万円です。もちろん収量もここ5，6年前と比べ殆んど倍増しているとは云え，販売金額は平均して毎年ほぼ1億円近く増えるのですよ。"

と，長友，梶原さんの口が期せずして揃う。

脚光をあび，伸び盛りのハウス野菜が主体とは云え，年間平均1億円近い売上増が期待できるとは！あながちフロックとのみ云い切る訳に行かないと思う。やはりこれは，生産，指導，販売面の結合が緊密で，うまくバランスがとれた状態で運営されているためではないか？

① 米，麦　（金額単位：千円）

種類	単位	46年度実績 数量	46年度実績 金額	47年度計画 数量	47年度計画 金額
米	袋	57,850	229,157	65,000	260,000
麦	〃	1,360	2,263	1,400	2,100
なたね	叺	180	690	140	490
計			232,110		262,596

② 野菜（ハウス）　（金額単位：千円）

種類	単位	46年度実績 数量	46年度実績 金額	47年度計画 数量	47年度計画 金額
トマト	t	2,106	213,873	2,390	233,000
きゅうり	〃	1,289	104,639	1,292	137,960
ピーマン	〃	528	57,886	637	89,180
西瓜	〃	224	32,468	315	36,450
メロン	〃	65	9,334	129	15,600
計			418,200		512,190

③ 野菜（露路もの）　（金額単位：千円）

種類	単位	46年度実績 数量	46年度実績 金額	47年度計画 数量	47年度計画 金額
ろじきゅうり	t	1,489	97,733	1,250	75,000
南瓜	〃	128	10,609	255	17,500
白さい	〃	410	5,654	150	750
落花生	kg	7,832	1,297	40,000	4,000
計			115,293		97,250

④ みかん，まゆ，茶，畜産，その他　（金額単位：千円）

種類	単位	46年度実績 数量	46年度実績 金額	47年度計画 数量	47年度計画 金額
みかん	t	284	14,839	420	23,640
まゆ	kg	35,310	32,912	39,300	37,335
桑苗	本	189,575	3,601	155,000	2,170
茶	kg	34,543	22,358	41,500	28,150
牛乳	t	2,803	129,755	2,942.5	146,994
子牛、肉牛 子豚、肉豚	頭	4,425	244,396	6,579	284,081
その他			8,789	ニラ 20 千切 20	4,000 1,600
計			456,650		527,970

そして交通機関の発達，情報網の拡大は，宮崎県のような遠隔地の産地でも，その販売分野が非常に拡大され，新富町農協が直送する消費地は京阪神市場向け46.6%は当然として，東京市場向け34.1%がこれに次ぎ，以下，北九州市場向けに7.1%，中京市場向けに3.7%を発送しているほか，物によっては北海道方面に3.8%も直送していることに注目したい。

これら野菜の集送の要（かなめ）となるのが，裏手にある「児湯野菜集送センター」である。これは46年度の広域営農団地整備事業として，工費1億1千五百万円を投じて着工されたものである。鉄骨スレート，1部2階，延3,511m²，敷地面積9,300m²で，建物は作業棟3,335m²，休憩棟229.5m²，機械設備としてはトマト撰果プラント2基，きゅうり作業台一式で，46年10月5日に着工し，本年2月29日に完全したものである。（なお設計管理は宮崎県経済連，施工責任者は河北工務店）

なおハウスの面積は80ha，経営農家300戸というから，1戸当り平均耕作は約2.6aである。

施設栽培は"夏作（米）を休耕するので…。"濃度障害などは殆んど問題ないそうであるが，地力保持，増進の意味からも，切りわら，なたね油粕などの有機質を投入しなければならない。ハウス野菜，露地野菜の主なものについて別項のように施肥基準が設定されているが，ハウスの場合は栽培作物が何であれ，CDU燐加安S682と燐硝安加里S604を併用して，まず"まちがいない"そうである。

つまりCDU燐加安S682は緩効性窒素肥料として，有機質の代替としての役割を果していると云える。

岩本さんのきゅうり

ドライバーから変身した岩本さんと栽培歴4年の岩村さんの意見と生活

"では出かけるかね？ 染矢さん…。"と長友さんが声をかけられたのを機に，われわれは外へ出る。これから，この近隣にある岩本博之さんのキュウリと，岩村保博さんのスイカの現圃を見ようというのである。

快晴の日向の空は殆んど風もなく汗ばむくらい暖かい。農協から約10分ばかり北へ自動車を走らせたところで降りて，左手に見えるハウスの外から"やあ，お邪魔するよ…。"

岩村さん

野　菜　の　施　肥　基　準　（1部）

作物名	目標収量	基肥 堆肥	基肥 けいふん	基肥 油粕	基肥 化成肥料名	基肥 数量	基肥 単肥名	基肥 数量	追肥 肥料名	追肥 1追	追肥 2追	追肥 3追
抑制きゅうり	5 t	kg 3,000		kg 360	ハウス2号 燐硝安加里S604	180 kg 40	BMヨーリン 硫加 苦土石灰	40 kg 20 180	燐硝安加里S604 液肥	40kg	20kg 6 kg×16kg	
ピーマン	10 t	4,000	kg 200	320	ハウス2号	300	BMヨーリン 硫加 苦土石灰	40 20 200	油粕 燐硝安加里S604 液肥	80 60 6	20 20	80 20
促成南瓜	7 t	3,000			ハウス2号 オール8号 燐硝安加里S604	120 80 20	BMヨーリン 苦土石灰 燐硝安加里S604 液肥	40 140	オール8号	60	(3) (4) (5) 20 20 20 6×12	
抑成トマト	5 t	3,000			有機園芸654 CDU682	180 30	BMヨーリン 硫加 苦土石灰	40 20 120	燐硝安加里S604	20		
抑成西瓜	3 t	2,000		240	ハウス2号 燐硝安加里S604	240 40	BMヨーリン 苦土石灰	40 200	燐硝安加里S604	20		
露地きゅうり	3 t	2,000	360		CDU682	100	苦土石灰 BMヨーリン	100 40	燐硝安加里S604	60	40	20
〃 南瓜	1 t	1,500	160		オール8号	160	ヨーリン 苦土石灰	20 120	燐硝安加里S604	40	20	
白菜	8 t	2,000			燐硝安加里S262 化成1号	60 80	石灰窒素 苦土石灰	40 120	燐硝安加里S262 NK 7号	40	40	
レタス	2 t	2,000	100		燐硝安加里S604	80	硫加 尿素 ヨーリン 苦土石灰	20 30 40 120	尿素	10		
大根（切干）	5 t	2,000			燐硝安加里S262	80	苦土石灰	120	NK 7号	40	20	

と，長友，梶原さんが声をかけながらハウスの中に入る。筆者も染矢さんの後について入る。

ガッしりしたパイプのハウスの中は，非常に奇麗に，まるで箒木（ほうき）で掃いたようになっていて，入ったトタン，筆者の眼鏡はボウと曇った。20ａあるというハウスの中はキュウリが筆者の胸もとあたりまで伸び，あちこちに黄いろい花が見えるかと思えば，葉裏に可愛い5，6㎝ばかりになったキュウリが見えかくれする。

と，中から痩（や）せぎすな32，3才がらみの人物が現われた。岩本博之さんである。

岩村さんのスイカ

“この人はね，3年前まで宮崎市でドライバー生活をやっていたのだが，どうにも性に合わんと云うて農業に“変身”したという人です。” と長友さんが岩本さんを紹介される。

“変身”されるのは，何も岩本さんに限ったことでなくて，この地域への都市からの還流は，最近やゝ目立つ傾向であるという長友さんや梶原さんの話であるが，これは確かに注目すべきことと云わねばならない。

と云うことは，この地域からの農業労働力の他産業への流出という現象は見られず，後継者問題で悩んでいる生産農家は殆んどいないということにつながるからである。県内の他地域は知らぬこと，ここ新富町農協管内に関する限り，農業は立派に定着しそうである。

“ＣＤＵ燐加安？ わし本当はこの肥料がよう判らんじゃ，が，もう2年越し使うとる勘定になる。そのお蔭かどうか，ことしも虫は付かんし，病気も出んかった。この分では…。” まあまあという状態でクリスマス前後に収穫最盛期を迎えられるだろうと，岩本さんは筆者に述懐されるのだが，何んと育ちの良いキュウリであることか！

“この肥料は燐硝安加里のような肥料と併用するとええんじゃ。” と傍から長友さんがアドバイズされる。

岩本さんのハウスを見終った筆者らは，ここからホンの少々離れたところにある，岩村保博さんのハウスを訪れた。このハウスは総面積40ａ，その全部にスイカが栽培されていて，果実はちょうど野球のボールぐらいの大きさになっている。玉は1本に1個しか着果させず，また尻の変色を避けるため絶対に敷ワラは用いない。

岩村さんはちょうど37，8才ぐらいの痩身長軀，彫りの深い風貌（ふうぼう）の人物で，瞳と唇に常に微笑をたたえているような感じの人である。

スイカの栽培歴は4年になるということだが，岩本さんのキュウリと同じように，クリスマス前後に収穫最盛期を迎えるというのに，このハウス内の1個，1個のスイカの身の振り方が既に予約済みになっているということと，40ａの栽培管理から収穫までを，家内労働力だけでやっているのだと聞かされてビックリした。それでは忙しくて大変でしょう？という質問に，岩村さんは“忙しいの何のと…目が回ると云うのは，あのことでしょうか…。” と云って微笑した。

それもこれも，出来秋の楽しさがあればこそ，堪えられる苦労であるかも知れない。

“わしのところは肥料は燐硝安加里 Ｓ604 が主体です。ことしで4年になるが，この肥料は本当に良い肥料です。使い馴れもしたし…。しかし，施肥管理はもちろん大事だが，スイカの場合栽培のコツは何か？と云えば私はやはり水の管理が一番だと思う。しめり過ぎていけず，乾き過ぎても良くない。” と，岩村さんは筆者の顔を見つめながら，水管理の重要性を熱っぽく説く。物がスイカであるだけに“なるほどそうかも知れぬ…。” とも思う。

過疎に悩む農村があるかと思うと，一方には都市からの労働力が還流するし，後継者問題にも格別気にかけないで済む地域もある。その日の夕刻宮崎から帰京する列車の中で筆者は，この相反する農村の現実の姿と，今後の在り方とを考えていた。